



【特集】

「生活改善・学力向上プロジェクト」

山陽小野田方式の教育改革がスタートしました



児童、生徒をとりまく環境は、家庭用ゲーム機や個室テレビ化などによる生活の夜型化、インターネットの爆発的な普及などにより、ここ数年で急速に変化してきました。そして、そのような高度情報化社会の進展は、生活の豊かさをもたらすとともに、子どもの健全な成長を阻害する負の要因のひとつとしてもあげられるようになってきました。

今、教育現場では、勉強への意欲が低く、自信も持てず将来への希望もない児童や、学力だけでなく、基礎体力の衰えや様々な健康障害を抱えた児童が増え、不登校の著しい増加やいじめなどの問題がおこっているのが現状です。

これらの"人間力"の低下とも言うべき現象は、現代日本が抱える最大の問題の1つです。この"人間力"を担っている部分が脳の前頭前野とされています。山陽小野田市では、そこに着目し、前頭前野を鍛えることにより子どもが飛躍的に成長する仕組みを、家庭・学校がそれぞれ役割を分担することによりつくりあげ、今年度から「生活改善・学力向上プロジェクト」としてスタートしました。

このプロジェクトを総合的に指導するのは、"百ます計算"^{つちどう}でおなじみの陰山英男先生です。先生が尾道市立土堂小学校の校長として著しい成果をあげられた、音読、計算を中心にした反復学習をすでに市内の全小学校で4月からはじめています。

本市の教育目標「自分の将来に明るい希望を持つ、元気な子どもを育てる」ために、全国に先駆けて始めた取り組みについて特集しました。

【問い合わせ先】教育政策室 ☎ 82-1208